

に常勤職員との仕事の違いを明確にするように。
市長) 今、業務プロセス分析をやっており、仕事の区分けを線引きしていくことが必要だ。今回はその手直しの一つ目だと思っている。
三遊間の球を飛びついて捕ろうとする職員像へ
甲斐) 市長は職員に対して「信賞必罰」を唱えているが、私は、それでは職員は萎縮してしま

うか、新たな課題にミスリードを恐れて、果敢に取り組もうとしなかったり、枠の中の仕事にとどまろうとしたりしてしまう。見解は？
市長) 私は三遊間のゴロは捕れと言っている。
甲斐) 地域福祉計画がスタートしたが、地域参加の市民意識の醸成がなされていない。課題だ。
市長) おっしゃる通りこれからの肝だと思う。

より幅を広げて周知するよう模索していきたい。
甲斐) 昨年の代表質問でも庁舎の検討の一つとして、立派な本格庁舎でなく、この仮庁舎と同程度のものを新設につなげる方策を提案した。本予算に庁舎関連は無いが、選択肢の一つと検討せよ。

一般会計予算案に対する討論の要旨

3月22日の本会議で平成28年度一般会計予算案に対する表決に先だち、各会派等から賛成・反対の討論が行われました。内容は、各会派等が一定のスペース内で自由にまとめたものを討論が行われた順番で掲載しています。

財政健全化に向け大きく前進!!



自民党国分寺市議団 尾澤 しゅう

本予算は、井澤市長の掲げる「将来を見据えた財政健全化」に基づき、これまでに引き続き「ゼロベース部局積上げ予算方式」に取り組み、各部及び各課における「見積り徹底的な精査」と「ヒアリングの強化」により真に必要なものを計上した結果、財政調整基金の取り崩しを行わない収支均衡予算となった。

また、本予算の一般会計は、昨年度、過去最大規模となった額を超えて約408億円となりました。中身を見れば扶助費が前年度比8.0%、約7億8,000万円の増となる中、それでも財政調整基金を6億6,000万円ほど積み増すことができ、平成24年度には約29億円まで落ち込んだ基金残高を平成28年度は約55億円まで積み増すことができる、そのことについて高く評価をしております。更に、公債費の償還が進み一般会計で4.6%、約8,500万円の減、下水道事業債、特別会計を含めた全会計総額で4.6%、約2億円の減となるなど、着実に公債費を減少することに成功してきている。

それによって市債は平成19年度、約675億円あった未償還額は平成28年度、約388億円にまで減少する見込みである。

これらの数字から読み取れるのは、中長期的なビジョンから行政財政改革を進め「将来にわたって安心して生活ができる、持続可能で自立した自治体財政」に向けまた一歩、大きく前進したということであり、3回目の予算編成となる井澤市政を高く評価をさせていただくものである。

個別の事業ではより精査がなされ、明らかに無駄なものや旧態依然とした事業というものは確実に減少し、新たな地域課題の解決、または、新たな市民ニーズへの対応を目指した取り組みが多く見られる内容となっており井澤市長の改革の成果が確実に出てきていることがわかる。

計上された一つ一つの事業では若い世代が安心して産み育てることができる環境整備のために、民設民営保育所の整備と拡充、狭あい状況の解消に向けた民設民営学童保育所の開設と誘致、親子ひろば事業の拡充、小学校トイレ洋式化の改修、特別教室へのエアコン設置など、子ども・子育て施策の充実が顕著に見て取れる。

また、小学校通学路防犯カメラの運用や、木造住宅の耐震診断費用の無償化、街灯・照明灯のLED化の更なる推進など、安全・安心施策の充実はもとより、福祉分野でも新たに「高齢者見守り相談窓口」の開設や、認知症施策の推

進として認知症カフェの整備、認知症地域支援推進員の配置、就学前の乳幼児を対象としたインフルエンザ予防接種の一部公費負担、妊婦健診での「HIV抗体検査」「子宮頸がん検診」の公費負担の実施、25歳から29歳を対象とした若年層健康診査の開始など福祉施策の充実も多く図られております。施設予約システム導入事業や、ぶんバスの新規ルートとなる「万葉・けやきルート」、証明書等のコンビニ交付開始をはじめとする、利便性が高まる市民生活に直結する事業なども随所に盛り込まれております。

井澤市長が収支均衡予算を引き続き編成されたことは、改めて市長の財政の健全化に臨む強い姿勢を感じたところである。今後も更なるアウトソーシングの推進や事務の効率化の徹底により、行政改革に取り組んでいただきたい。

井澤市長のもと、新庁舎建設に向けて大きく一歩踏み出すことができる、そんな平成28年度予算であり大きな成果が出ることを期待しております。井澤市長のもと全職員が一丸となって市民の信頼に応えていただきますよう強くお願い申し上げ、賛成の討論とさせていただきます。

手堅い財政運営継続と職場環境の問題解決を



国分寺政策市民フォーラム 皆川 りうこ

一般会計約408億、特別会計合わせて約708億円もの予算を議決する立場として最初から結論ありきではなく質問、議論、提案により結論を見出す。代表質問で市長自身の評価を問うた際にはまだ成果が十分に得られていないとの答弁。現状は基金の積み立てなど堅実な財政運営がなされている点は評価する。一方、現場においては指示等浸透していない実態が判明。しっかりと認識した上、市政運営にあたるよう求める。

●個別事項等市の姿勢、前向きな答弁で評価
①財政面では、財源不足の穴埋めのための借金である臨時財政対策債を借りずに予算編成した。
②一部課題はあるものの、ゼロベース部局積上げ方式で約6億円もの基金積み増しができた。
③15年ぶりに嘱託職員報酬など抜本的な改善、改正がなされた。応募者ゼロとならないように。
④まだ十分ではないが保育園誘致の積極的姿勢
⑤精神保健業務の窓口一本化。障害者差別解消法の趣旨とも合致する。周知、広報を着実に。
⑥認知症カフェの開設等高齢社会に向けての施策の充実。介護保険に留まらず健康寿命を視野に一般施策での介護予防施策の充実取り組みを。
⑦男女平等推進施策では性的少数者施策について学校教育との連携によりいじめにつながらないよう取り組むことや相談窓口のパンフレット等男性トイレにパンフレットの配架等工夫を。

⑧学校におけるトイレの洋式化への改修。
⑨若年層に対しての健康診断の取り組み拡充。
●施政方針や予算上の問題点、課題、指摘事項
①市長就任以降記載されていた普遍的テーマ「健康で文化的な都市…」を「持続可能な自治体財政の確立」に変更。削除せずに加筆すべき。
②指定管理者制度、行政評価制度全般では、制度導入が目的ではない。市民サービス、効率化の両面の検証を。事務事業評価の指標が活かされていない。自らの仕事をしっかり認識せよ。
③業務プロセス分析。職員の職務が限定的で硬直した組織になるのではないかと懸念あり。
④超過勤務の目標時間に達成していない実態がある。何が問題か分析等により改善が必要。
⑤情報共有ができていない組織の在り様の問題。臨時職員等現場の声が上司に届かず風通しの悪い職場環境がある。チームワークの良い職場づくりを目指す市長の方針とは異なる実態だ。
⑥職員衛生管理費におけるストレスチェックは多くの職員が受けられるようにすることが望ましい。日頃から良好な職場環境が大事な点だ。
⑦予算議案再提案となった、体育施設自動券売機借り上げ事業についての見積り問題はゼロベース予算編成の考え方が踏襲されず、従来の手法により契約することとなった。債務負担行為については他の事業では問題がないか再検証すべき。
⑧本多公民館防火シャッターの件は市民の安全面において不適切な対応が判明。体育施設も含め契約の問題等再発しないよう求める。
⑨市民参加、市民への説明について。無作為抽出による市民参加に加えて参加したい市民を排除することがないように。市民説明でお上意識との批判あり。説明の在り方を再度確認せよ。
⑩数百万の補助金支出と目的がコミュニティの醸成の国分寺まつりは未だ市民が二分されている状態。質問に答えない市長の姿勢は不誠実で市民の不信感を買うこととなる。3年目の新年度は、解決に向けて取り組むようにすべき。
⑪1億の歳入を見込んでいる特定財産収入は目標を達成すべく取り組むことを求める。
⑫職員組合と市との関係性は不安定で市民サービスへの影響が心配となる市政運営は問題とし、評価する点もあるものの予算議案は反対を表明。会派では1人反対。賛成者は5人となりました。

市民に寄り添い、思いやりの施政運営を!



公明党 なおの 克

●財政運営について
将来世代への負担の先送りとなる臨時財政対策債を借り入れず、公債費を減少させ、約6億6千
次ページに続く▶